

わかれたる子にたつね

あふおやのことし

やミならぬ道みちにまよふも

今いまハはや

子にあふさかの

せきのあけほの

此みくしにあたる人ハ十一めんくハん音天神をいの

りてよし ○ねがひ事十ぶんなるべし ○やまひ事

おもはずよきくすしを得て本ぶくはやし ○産安

かるべし ○うせものしバしあいだを置いて出づへし ○いひぶん

あらそひ理ありともつよくいひつゝのるまじみくしはなハだ

大吉なるゆへ吉きつきハまつて凶けうにちかしといふてかへつてわざ

ハいできたひ出来る事有べしをたやかにしつめてゐればさきより

ひとりとしたがふべし ○ゑんくみやう子のむすびよし

▲惣じてうたうらのこゝろかきりもなきよろこひの

ていなをいよいよ信心しんじんしてつゝしむべし

第壱はん

別れたる子に 尋ね逢う親の如し

闇ならぬ 道に迷うも 今は早 子に逢坂の 関の曙

此のみくじに当たる人は 十一面観音・天神を祈りてよし

○願ねがい事 十分なるべし

○病やま事 思おもわず良よき薬くすり師しを得えて 本復もと早はやし

○産 安やすかるべし

○失うせ物 暫しばし間まを置いて 出いづべし

○言いい分 争あい理りありとも 強つく言い募もるまじ みくじ甚おだ大お吉きなる故 吉き極まままつて凶あに近ちし

というて 却かえ 却かつて 災いい出いで来きる事ことあるべし 穏おやかに鎮しめていいれば 先まよりひとりと従したがうべし

○縁ゆかり組 養やしん子の結むすびよし

▲惣おじて歌うた占うらの心 限かぎりもななき悦よろこびの体てい なおいよいよ信心しんして 慎おそむべし

第壹番

十一面観音ていしゅういん 天神山貞昌院てんじんざんていしょういん のご本尊ほんそん。 くすし【薬師・医師・医】 医者の古称。

ほんぶく・ほんぶく【本復】 全快。 いibun【言い分】 いさかい。 口論。

ことわり・り【理】 ①道理。 条理。 すじみち。 ②理由。 わけ。 (対義語 非)

いいつのる【言い募る】 調子にのつて、ますます言い張はる。

ひとり【独り】 人手ひとでを借かりずにするさま。 また自然しぜんになるさま。 ひとりで。

うたうら【歌占】 巫女みこの歌うたの辞ことばで吉凶きちうを判はじる占うらい。 (※本文書では、おみくじの歌)

てい【体】 外ほかから見たみたありさま。 ようす。

こひしき人に

あふがことし

いのりこし      見たらし

神の              川の

ちかひの      あふせ

すゑとげて      わたらん

此みくしにあたる人はいりん観音をおがむ

べし ○ねがひ事八ぶんなるへし ○やまひ事

少しをそくとも本ぶくすべし ○いきしにハ

いくべし ○うせ物いづる ○まち人きたる ○産やすし女子

なるへし ○いひぶんかつへし ○ふさいのむすひゑんあるべし

しかも中よく子あつてすゑはんじやうすべし ○がくもん

入学にうがくよくすゑとをる ○あきなひ事よろづ買をき七

八ぶんの利を得べし

▲うたうらのこゝろうれしき事當ぶんながら逢て事

のとゝのふる心なればいかにも吉なり

第弐はん

祈り来し 神の誓いの 末遂げて 御手洗川の 逢瀬渡らん

此のみくじに当たたる人は 如意輪観音を拝むべし

○願い事 八分なるべし

○病事 少し遅くとも 本復すべし

○生き死には 生くべし

○失せ物 出づる

○待ち人 来る

○産 安し 女子なるべし

○言い分 勝つべし

○相応の結び縁あるべし しかも仲良く子あつて 末繁盛すべし

○学問 入学 よく末通る

○商い事 よろず買い置き 七八分の利を得べし

▲歌占の心 嬉しき事当分ながら 逢いて事の調うる心なれば いかにも吉也

第貳番

みたらしがわ【御手洗川】 〓神社の近くを流れて、参詣者が手水を使い、口をすすぎなどする川。

いibun【言い分】 〓いさかい。口論。 〓ふさい【相応】 〓つりあうこと。

にゆうがく【入学】 〓師のもとに弟子入りすること。入門。 〓すえとおる【末通る】 〓成功する。

かいおき【買い置き】 〓値の上がったときに売るため買いためておくこと。